

皆が聖霊に満たされ

——ペンテコステの月に——

ブロックアドバイザー 田中 進



ペンテコステで誕生した教会は進展していききました。ところが、課題も出てきました。人が集まる所、問題も当然起こります。教会も例外ではありません。重要なことは、それにどのように向き合い、対処するかです。ここでの課題は意思疎通の欠如でした。それが原因で毎日の配給のことで一方から苦情が寄せられ、教会が分裂しかねない状況に発展しました。

それを切っ掛けに、使徒たちは弟子たち全員を呼び集め一つの提案をします。「私たちが神のことばを後回しにして、食卓のことに仕えるのは良くありません」（使徒六章2節）。これは単に食事の分配に留まりません。生活全般に影響を及ぼします。

問題は私たちの教団や教会、またそれぞれの家庭にも起こります。その時、初代教会は解決の道をどのように見出したのでしょうか。まず「神のことば」をすべての基本、最も大切なこととして位置付けたのです。優先順位を明確にしました。ここが鍵です。

そして、具体的な対処をしていきました。「そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵に満ちた評判の良い人たちを七人選びなさい。その人たちにこの務めを任せることにして、私たちは祈りと、みことばの奉仕に専念します」（使徒六章3、4節）。

壮年部・女性部が信徒局として新たな出発をして1年余りが過ぎました。各教会間の信徒の交わりが促進され、恵みを分かち合い、同時に教会や教団の諸課題を共有し、みことばにしっかりと立ちつつ、主に仕え

る信徒局として用いられるよう皆で支えましょう。さて、選ばれた七人はその後どんな働きをしたのでしょうか。彼らは信徒間の意思疎通を図り「食事の分配」だけの奉仕ではなく、みことばの奉仕に携わっていくのです。

初代教会は「信仰と聖霊に満ちた人ステパノ」のように信徒であっても使徒と同じようにキリストを宣べ伝え、会堂で教える奉仕に携わりました。特別な神学教育を受けることも大切ですが、最も大切なことは、牧師信徒を問わずペンテコステの恵み、すなわち「皆が聖霊に満たされ」ることです。当時の信徒は「弟子」「聖徒」「奉仕者」と呼ばれていました。十二使徒だけがみことばに仕えていたわけではありません。

「聖霊によるのでなければ、だれも『イエスは主です』と言うことはできません」（1コリント二二章3節）。私たちはクリスチャンはみな聖霊をいただいている主の弟子なのです。私たちのためにいのちを与えてくださった主に一切をお委ねし、明け渡しましょう。

私たちの国は、すでに超高齢化社会（65歳以上の人口が21%超え）に突入しています。昨年の白書によるとすでに27・7%に達しています。そして教団も同じです。退職する牧師が年々増えていく時代です。一体どうなっていくのでしょうか。しかし希望はあります。

「神は言われる。終わりの日に、わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、青年は幻を見、老人は夢を見る」（使徒二章17節）。

目次

- 皆が聖霊に満たされ……田中 進……1
- 霊想、厚木ホーム、ホーリネス宣教協力懇談会……2
- CAMP2019、スタッフキャンプ、生涯教育課……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- 信徒大会、教育局、カナ・フェシブ……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

ペンテコステの
霊想



恵みによって心を刺され



WGM宣教師
ブランドン・久芳

ペンテコステの朝、変えられたペテロは人々に向かって、救い主の死に対して責任があることを宣言します。ペテロはこの時、自身が立派な者として話しているのではありませんでした。むしろ他の誰よりも、主に對する自分の失敗を知っていました。

私自身、罪について話すのは苦手で、相手の罪について話すのは、もっと恐ろしいことです。特に日本では、ストレートに伝えるのは簡単なことではありません。私は、自分の弱さを知っています。ペテロのように、罪について語るのに最もふさわしくないのは私だからです。現代は、罪のメッセージを語りづらくなっています。「私は良い人です」と思っている人たちに罪の問題で説得しようとするのは、とても難しいことです。

だからといって、私たちは罪の問題を避けるべきではありません。新約聖書の中で、繰り返されている重要なテーマの一つが深刻な罪

に對する気づきと、悔い改めによって救いが与えられるということです（Ⅱコリント七・10）。そして、この罪の気づきこそが聖霊の特別な働きによるからです。

聖霊の働きをクリスチャンや教会のみに限定するならば、私たちは、聖霊のもう一つの大切な働きを見失うこととなります。なぜなら、ペンテコステの朝、聖霊はペテロの説教を聞く人々の心にも働かされていたからです。私たちの予想に反して、ペテロの説教を聞いた人々は「心を刺され」たのです（使徒二・37）。この出来事は神の恵み以外では起こりません。

私たちはこの出来事に驚いてはなりません。なぜなら、イエスさまは聖霊が罪について、世の誤りを明らかにされる（ヨハネ一六・8）と約束を下されたからです。パウロもまた、聖霊の働きは、信じていない人や初心の人に對して、罪を示される（Ⅰコリント一四・24）と書いています。

これらの聖句は、私たちを励まし、伝えるべきメッセージに對して抱く恐れやプレッシャーから自由になります。つまり、私たちが福音を伝える相手に對して、聖霊の豊かな働きがすでになされていると確信するのです。そういうわけで、ペンテコステから二千年以上経った今でも、私たちは聖霊の「恵みによって心を刺される」働きを信じ、期待することができるようです。その時、ペンテコステのようになりバイバルが始まります。



女性牧師ホーム委員会

厚木女性牧師ホーム
活用の促進を

委員長 北田直人

2014年以降、短期休養や会議のために一度利用されたことはありますが、単身女性牧師の入居用について検討し、「厚木レストハウス」と改名して、入居者がいない時には、女性に限定せず、短期休暇のために気軽に利用できるようにしたかどうかという案が出されました。生活に必要な物はそろっていますし、買物も便利になりました。インターが近いので、少し足を伸ばすこともできます。案が決まりましたならば、改めてお知らせします（マルコ六・31）。

ホーリネス宣教協力懇談会

同じルーツを持つ諸教団が
教団間協力を目ざして



教団代表 内山 勝

2017年10月に「ホーリネス100周年記念集会」が開催されました。きよめ派の中でも、戦前の「ホーリネス教会」にルーツを持つ12教団が集まって、共に主を礼拝し和解の恵みに与りました。また、困難な時代に向かう私たち、多くの点で共通の課題を抱えていることも共有されました。高齢化・牧師不足・若い献身者の減少などです。今後、いろいろな意味で宣教協力をして行く必要を、お互いに実感する良い集いとなりました。以後、年に1〜2回の割合で、情報交換と共に、具体的に地域教会における協力の可能性を探る話し合いを続けています。

去る5月14日、当教団事務所の会議室において、第3回目の懇談会が行われました。

今回は、ルーツを異にしていますが、きよめ派の大きな団体で、全国に130教会を有する「日本イエス・キリスト教団」が加わってくださいました。



沖繩・九州・中国・四国の地域を取り上げました。各教団の教会所在地をグーグル・マップで大きく映し出しながら、各団体の地域教会の情報を分かち合い、今後の協力の可能性について、突っ込んだ話し合いをしました。引退間近の牧師が牧会していたり、常駐牧師がなく兼牧で凌いでいたり、地方に行けば行くほど大変なのですが、だからこそ、教団間協力によって乗り越えられることもあるのではないかと感じました。

昨年は、北海道・東北について話し合ったのですが、その場におられた一牧師が、主からビジョンを与えられて志願して福島に赴任されたというニュースを聞き、胸が熱くされました。始められた働きに、何か協力できないかということも話し合われました。

すぐに何かが進展しなくても、情報共有と祈りを積み重ねることによって、何かが生まれるとの期待感を強く抱きました。

近畿・中国・四国3教区共催

CAMP2019を開催 次世代の交わり・連携



和歌山教会 久保光彦

4月29日から5月1日まで、神戸市立自然の家を会場にして、近畿、中国、四国教区の共催で、ユースの集「CAMP2019」が開催されました。主講師には、仙台教会の細田恒太郎師をお迎えし、3回の全体集会、恋愛についての分科会を担当していただきました。

東は東京（中目黒）、西は四国や広島、また留学生の方も交えた参加者が与えられました。時代の変わり目に、時を越えても変わることのない「キリストにある若い世代の交わり」を持つことができました。真の意味での「教会」の姿を見、また体験する貴重な機会でした。本当に感謝でした。

2日目の午前には、学生と社会人を分けて集会を持ちました。社会人向けの集会では、細田師が創世記の四三章から、主のみことを知ることに、みことばに基づく実践的なメッセージを語ってくださいました。主のみことを知る



ためには①人間的な準備を怠らない②主の御心から逸脱することをしない③主との正しい関係を絶えず第一のこととする④（良くても悪くても）結果を主にお委ねすること等、大切な事柄が語られました。午後はアーチェリーや草木染、また映画やスポーツなど、思い思いのレクリエーションを楽しみました。夜には、世代や分野、テーマごとに分かれた分科会が持たれ、少人数での濃厚な学びと分かち合いの時を持つことが許されました。

最終日の早朝には、日の出を六甲山頂で、という企画が用意されており、参加者もそれを楽しみにしていました。あいにくの天候で日の出を見ることは叶いませんでした。けれども、時代の変わり目にあつて、変わることにない真理を握って新しい時代に踏み出せたことは感謝でした。さらに青年の交わりが深められますように。

スタッフ・トレーニング・キャンプ 充実した「とにキャン」を日ざし

ベテルハウスに集まり 実践的なトレーニング と、夏に向けての準備

仙台教会 細田恒太郎

長いゴールデン・ウィークの終盤、5月5日（日）～6日（月）にかけて、神学院のベテルハウスを会場に、第4回とにキャン・スタッフ・トレーニングキャンプが開催されました。とにキャンの卒業生や、既にとにキャンでスタッフとして奉仕をしたことがある方々10名が参加し、二日間3つのクラスを受講しました。夜には近くのユースランドの湯に出かけたり、ホールに集まって遅くまで談笑したり、二日目には、まだ整備されたばかりのベテルハウスの駐車場に大型のバーベキューコンロを出し、さわやかな日差しの中、肉、野菜、台湾の薄焼き餅などを焼きながら、おいしい昼食を囲むなど充実したプログラムでした。

また今年のとにキャンで発売されるオリジナルTシャツとタオルのデザインについて、原案がいくつもありましたが、若い方々の意見を聞かせて頂き決めることができました。牧師の中で推されてい



たデザインと若い人たちが選んだデザインの方向性が相当違っていたので、やはり感覚的なギャップがあったようです。デザインを決める前に、見て頂き助かりました。今年のTシャツとタオルのデザインも、ぜひ楽しみの一つにして来ていただきたいと願っています。

今年のとにキャンのテーマは「Get Over ～翼をばたけ～」（イザヤ40:31）。講師は玉川聖学院学院長の安藤理恵子先生です。今年もスタッフやキャンパーの意見を取り入れつつ、既に様々な準備が進められています。またこれまでの経験から初めて参加する中学1年生が、学年で仲良くなれるプログラムも計画中です。今から周りの中学生を覚えてお祈りください、参加を促してあげてください。参加する中学生が交わりを通して良い信仰の仲間が与えられ、それぞれに信仰が強められる機会となるようお祈りください。

生涯教育課会議の報告

今後の活動計画は 「途上のわれら」誌と 研修プログラムを

王寺教会 田辺寿雄

5月9日（木）、教団本部にて生涯学習課の会議を持ちました。出席者は教育局局長と生涯学習課のメンバーの計4名です。課の主な働きは、牧師対象の機関誌「途上のわれら」を年3回発行することと研修プログラム等を通して、牧師の継続的な成長をサポートすることです。今回の会議ではまず「途上のわれら」の今年あと2回発行される分の原稿執筆者の確認を行いました。また、今年3月に行われた若手牧師研修会（対象は神学院卒業後7年以内の牧師）の評価・反省の時を持ち、次回（来年）の日程、場所、テーマなどについて話し合いました。さらに、7月1～2日に開催予定の女性牧師研修会に向けて、最終の打合せをしました。これは近年、兼牧などで牧師夫人も説教の機会が増えてきた現状を踏まえて、今一度説教について学び直すことを目的としたリフレッシュ・セミナーです。今回は、近畿、中国、四国教区の女性牧師を対象としましたが、今後は別の地域で同じような研修会を継続できたらと願っています。

国内教会局から

教会建設の務めに
力を受けます!

今年6月の第2聖日が
ペンテコステです。イエス
さまが昇天なさるまでに約
東されたみわざが実現し始
める偉大な出来事です。そ
の日大なる響きとともに
聖霊が下り、主の弟子たち
は力を得ます。その力に



よって教会は誕生します。
その力は教会を生み出し
て尽きてしまうことはあり
ません。必要に応じて惜しみ
なく加えられ、新しく与え
られて、教会の前進を、そ
して教会に連なる聖徒たち
の日々の歩みを支えている
のです。私たちはその延長
線上を歩んでいます。
前に進むにも、そこに踏
(使徒二章)。(葛田崇志)

『ラルシュ』創設者ジャン・バ
ニエ氏死去
フランス系カナダ人のカトリッ
ク思想家で『ラルシュ』創設者ジャ
ン・バニエ氏が、5月7日午前2
時10分、親族に見守られ、パリで
死去した。90歳。1928年生ま
れ。フランス語で「方舟」を意味
する『ラルシュ』は、バニエ氏が
1964年に創設した知的障がい
や発達障がいなどのハンディを持
つ人々と持たない人々の共同体。
38カ国に154あり、日本では静
岡に『ラルシュかなの家』がある。
『国際ラルシュ連盟』は、死去の
数日前に残したメッセージは「私
は深い平安と信頼の中にある。未
来はどうなるか分からないが、神
は良いお方であり、何が起ころう
ともそれは最善である。私は幸せ
で、すべてに感謝している。あな
たが一人一人に心からの愛を」と
述べていた。

キスタン出国、カナダ着
米メディア『CNN』によると、
冒涇罪で死刑判決を受けた後、逆
転無罪となったキリスト教徒のパ
キスタン人女性、アーシア・ビビ
(本名アーシア・ノーリー)が

んが、パキスタンを出国、カナ
ダに到着していたことが5月8日ま
でに分かった。
ビビさんはイスラム教徒と口論
した際にイスラム教の預言者ム
ハンマドを冒涇した罪に問われ、
2010年に絞首刑が言い渡され
た。ビビさんは一貫して無罪を主
張。その後、昨年10月にパキスタ
ン最高裁は、検察側の証言には一
貫性がなく、うそが交じっていた
と断定し、無罪判決を下した。
これに対し、イスラム強硬派の
宗教政党『TLP』が全国で抗議
デモを展開。ビビさんは安全上の
懸念から当分の間、同じ刑務所に
とどまることを余儀なくされた。
その後家族と離れたまま、国内
各地の隠れ家を転々としていた。
ビビさんの5人の子どもたちはす
でにカナダへ移っていた。



海外トピックス

テンブルトン賞を受賞した。
葬儀は16日、『ラルシュ』発祥
の地、北フランスのトロリー・ブ
レイユ村で行われる。

『TLP』は最高裁に再審理を
求めたが、最高裁は今年、無罪判
決に問題点はなかったとして請求
を退けていた。(平瀬聡樹)

読書の

ひろば



皆さまのお手許に!

祈りのネットワーク
2019

ご協力を感じます。

出版事業部発行
定価二〇〇円

今年も『祈りのネットワーク
2019』をお届けすることがで
きました。皆さまのご協力に感謝
いたします。

*

■まず先生方の写真をご覧ください。
い。本誌を手に入れたならば、ま
ず各教会の先生方の写真をご覧下
さい。その時、お気づきになると
思います。ほとんどの先生方が笑
顔です!ときどき、微妙な距離
感のあるご夫妻の先生方もいらっ
しゃって、見ているこちらも笑顔
になります(笑)。これらの先
生がたが教会を建てるために、

毎日、この笑顔で明るく牧会され、
地域の宣教に励んでくださってい
ます。そのことを思うだけで私た
ちも元気になります。

■各課題を真剣に祈りましょう。
私は本誌を通して、各教会から
挙げられた今年の課題を祈ってい
ると、それら3つの課題と共に、
さらにその奥にあるであろう課題
をも敷衍させて祈っています。先
生がたが真剣にそれらの課題を奉
げて全国にいる同労者、信仰の家
族に祈りを要請されたことを思う
と、こちらも真剣に祈ることので
協
労の恵みに与ることの出来る感謝
があふれます。

■お互いの存在に感謝しましょう。
他の教会や先生がたのために執
り成しの祈りを捧げることが出来
ること自体、神さまが私たちに下
さった素晴らしい賜物だと私は思
います。今年も、この賜物を存分
に用いて皆で祈りましょう。そし
て、それら一つひとつの尊い教会
先生がたが同じイムマヌエルの群
れに属し、一緒に主のために仕え
ることが許されている。このよう
なお互いの存在に心から感謝した
いと思うのです。この感謝の祈り
が各教会や先生がたを祝福し、祈
る者自身も明るくし、教団全体を
も活気づけていくのではないかと
思います。

今年も、主が『祈りのネット
ワーク2019』を用いて、祈り
の輪を拡げて下さり、豊かな一致
の恵みを体験させて下さいますよ
うに!

関東4教区合同信徒大会

女性部/壮年部の力を合わせ
新しい信徒の働きとして
画期的な大会でした

中目黒教会 馬場満子

去る4月29日(月)に関東4教区女性部主催・壮年部共催、として初めての信徒大会を中目黒教会に於いて開催しました。

講演は「摂理に生きる信仰者の生涯に学ぶ」と題して、中目黒教会副牧師の梅田登志枝先生に語って頂きました。姑のナオミと嫁のルツの信仰から学ぶという女性の視点からのメッセージでした。人生の様々な営みの中で、主に信頼して歩んでいく事の大切さは男女の区別なく共感できる幸いな学びの時でした。壮年部からも多くの参加を頂き、160名を超える出席者が与えられました。

午後の分科会では、午前の分かち合いの他に牧師と信徒の協働、今後の信徒大会への期待と提言等活発な意見交換もなされ、これからの信徒局としての方向性にも大いに参考になる意見をたくさん頂くことができ、感謝でした。

一方、今まで教育局の範疇で活動してきた壮年部・女性部が信徒



局に移ったことにより、どのように活動を広げてゆくのかわ、まだ設立して間もない信徒局としては課題も多々あります。手探り状態のこともあり、壮年部・女性部の独自の活動から徐々に協力できることは協力しつつ、慎重にしかしある面では大胆に、進めて行く方向で検討して行きます。

今回は関東4教区での試験的な試みでしたが、各教区、地区によって、事情も様々であろうことも考慮しつつ、良い方向性を探っていくたいと思います。これは壮年部、女性部の問題だけでなく、牧師と信徒がどのように協力していくかを具体的に探っていくことでもあり、将来を見据えて、どのように信仰を次世代に継承していくかを真剣に祈り、考えなければならぬ喫緊の課題であると痛感した一日でもありました。信徒局の活動が、主によって正しく導かれるようにお祈りください。

教育局から……

春の運営委員会報告
「よく考える」信仰者に

教育局長 小川宣嗣

「私が言っていることをよく考えなさい。主はすべてのことについて、理解する力をあなたに与えてくださいます。」

(Ⅱテモテニ・7)
 5月7日に、冒頭のみことばを思い巡らしながら、春の教育局運営委員会が開催されました。

教育部では、信徒教育課より、信徒伝道者養成スクーリング関係と共に、過去の信徒講座ビデオがデータ化されたのでそれをより広く信徒教育に活用できないかを探ること、他教団で公開されている有益な資料を紹介できないか等が検討されているとの報告があり、生涯学習課からは、年會時に持たれた若手牧師研修会(14名参加)と、7月始めに新たな試みとして持つ西日本地域の牧師夫人を対象とした「説教」をテーマとする研修会の準備に関すること(現在14名申込)等が報告されました。

青少年部では、青年課より4月末に持たれた西日本ブロックユースのCamp2019報告、今年後



半に予定されているYS・BTCやYSBに関する報告、そしてよいよ青年部運営委員会に信徒の青年4名が加わる初めての会合が8月に持たれることが報告されました。青年部でかなり以前から検討されて来たことが実現します。新しい恵みが注がれることを期待しています。

中高生課からは、関東と東北で持たれたとにキャンフェスティバルやBTCで持たれたスタッフトレーニングキャンプの報告、そして8月の第12回とにキャンの準備状況等が報告されました。

教会学校課からは、CSさんびかの「初行・折り返し索引」の発送、4/14サミットへの部員派遣、ぬりえ紙芝居で欠けている部分の補足作業に取りかかったことなどの報告がありました。

各部・各課において、信仰者が「よく考える」ための助けとなることを目指して真実な働きが継続されています。

カナ・フェロシップご案内

踏み出そう!
聖なる婚活へ



中目黒教会 中山朝雄

このタイトルは、6月15日(土)中目黒教会で開催の第6回カナ・フェロシップのキャッチコピーです。講師の水谷潔先生が婚活・結婚・結婚後の大切なポイントを聖書からストリートに語ってくださいます。結婚を考えている兄弟はもとより、結婚後の夫婦生活の課題についても語られ大変好評を頂いております。是非、全世代のご参加をお待ちしております。

また、午後のフェロシップタイムはクリスチャンの伴侶を求めている兄弟のための集会です。これまでに沢山の兄弟が参加され多くの出会いがあり、結婚に導かれたカップルやこの集会をきっかけに結婚に導かれた方もおられます。クリスチャンとの結婚を考えているがどうしたらよいか分からない兄弟! アドナイ・イルエ。主が良き出合いを備えて下さいます。まず、祈って一歩踏み出してみませんか。申込期限は過ぎておりますが、牧師にお問い合わせてください(次回は11月23日を予定)。

皆様の周りにも結婚を考えている兄弟がおられると思います。その方々のために祈りつつ、参加を勧めてくださいませんか。

巻頭言

主の恵みにゆだねられた出発

～カンボジアを訪ねて～



世界宣教局長
梅田 登志枝



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

「主の恵みにゆだねられて出発した。」(使徒の働き一五章40節) 4月にカンボジア・クリスチャン・コミュニティ(KCC)の活動拠点となる本部と宣教師館の献堂式が行われました。宣教は、

時には痛みを伴いつつも、それを宣教の動力に変えてくださる神の働きを見出す式典でもありました。今から20年ほど前、カンボジアから3人の男子学生がフィリピンのロザリスの神学校に留学してきます。ポール・ポト政権による残虐行為と国際社会との断絶に終止符が打たれた後、宣教師たちが入り、教会が誕生していった、その結実です。卒業生のひとり、バンディー牧師は、英語教師として派遣されていたフィリピン人の姉妹と家庭を持ち、カンボジアに帰国後は聖書学校の責任者となりました。その数年前、フィリピン北部シニップにあるウエスレアン聖書学校に一人の青年が入学してきます。卒業後、マニラのナザレン神学大学院をトップクラスの成績で卒業

します。やがて同じような道をたどって卒業した姉妹と結婚に導かれ、カンボジア宣教師としてフィリピンから派遣されます。グレッグ宣教師夫妻です。イムヌエル宣教団はこのようなフィリピン・ウエスレアン教会との関わりから数年間、協力を続け、葛田緑乃宣教師を派遣し、他の宣教師たちとともに活動してきました。ところが諸事情により神学校は突如、閉じられることになりました。度重なる話し合いがありました。幕は下ろされました。その結果、現地ウエスレアン教会と牧師の7割がカンボジア・クリスチャン・コミュニティ(KCC)として新たに踏み出しました。関係者の誰もが宣教の痛みと涙を経験する出来事でした。使徒の働き一三章にはアンテオキア教会が最初の宣教師としてバルナバとサウロを送り出したことが記録されています。ところが二人は、一五章で、マルコのこと別行動をとるようになります。それでも教会は、その痛みを覚えながらも、宣教の「主の恵みにゆだねて」宣教師を送り続けました。宣教の働きを託される人間たちや組織には多くの欠けがあるかもしれませんが、それでも宣教師の主は、その欠けを覆って余りあるほどの恵みと愛をもって、いつの日かすべての意味を悟らせてくださることでしょう。KCCの働きとカンボジアの人々の救いのためにもお祈りください。



CAMBODIA

カンボジア

葛田緑乃*2019年5月8日

「アンテオキア教会の再建」(使徒一三章1-3節)をカンボジアに、と目指した献堂式を、予定通り局長の梅田登志枝師をお迎えし4月11日に行いました。次々とサタン攻撃を受けつつも、最後の祈りゆえに乗り越え、最後はほぼ完成となった本部ホールで主の栄光に満ちた献堂式となりました。献堂式数日前には宣教師館の2階が作業員のミスで水道栓の閉め忘れ(!)その結果2階は大洪水、1階も水浸しで献堂式の日には封鎖という日本では考えられない事件が。またノンペンには異常気象で雨不足のため、断水と停電が計画的に行われる不便な日々でした。しかし滞在中は水が3階の私の部屋にも充分供給され、困ることはありませんでした。しかし今日受信したメールでは、バンディー師は毎日3階のシャワー室まで1階からバケツで家族3人分の水を運ぶ日々。マーク師の家では夜中に水が出るので、起きて翌



日のためにバケツに貯める生活が続き、睡眠も充分とれずストレスが溜まっているとのこと、お祈りください。個人的には宣教地で喜寿となる誕生日を迎え、ささやかながら感謝の宴と献身の再出発をいたしました。ところが更に奇跡のギフトが。不可能なこと知りつつも心中に望んでいたピアノ! 教会員の一人が米国の中古品の輸入販売の仕事を開始されていたのです。しかも彼は教会のためならと購入可能な価格で売ってくれたのでした。カンボジアでピアノを売る楽器店はありません。でもイルエの神は遍在の神様でした。ハレルヤ。これからの救霊の働きを「カンボジアにもアンテオキアの教会の再建」と目指して、建物に目を留めるのでなく聖霊の働きに信仰の目をとめ、アンテオキア教会をモデルとして一歩前進しました。詳細はニュースレターを申し込まれた教会や個人にお届けします。申し込みください。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2019年5月9日

巡回のため、お祈り感謝申し上げます。4月は、山形教会、お茶の水の東京ブレイヤーセンター、市川教会、鶴岡白山教会、COG大江町教会、神学院教会に何うかとを許され、29日の信徒大会にも出席を許されました。初めて何う教会や超党派のご奉仕もありましたが、行ってみると、インマヌエルの教会に以前出席しておられた方がおられたり、出先でインマヌエルの教会に出席されたことのある方がおられたり、逆に、「以前、インマヌエルの〇〇先生が講師として来てくださったのですよ」と教えられたり、先備えの数々を見せていただき感謝でした。短い書籍でしたが、「同期の友が与えられるように」とのご配慮もあって聴講生としての神学院在籍を許された当時の同級生、上級生の方々に再会を許された月でもあり、感謝でした。

梅が香っている所や、桜前線が北上して満開になってる所を何か所も、さらにサクランボの花の咲き誇るころまで見せて頂きました。民数記の、「これでもか」というほど詰め込まれ、押し込まれ、あふれ出てくるような恵みを見せていただき感謝でした。既に伺った教会からの連絡で、浄水器の献品を引き取りに行ったりということも入りました。引き続き、献品のお問い合わせを頂いたり、包帯等送りました、というご連絡を頂戴し本当に感謝です。昨年帰国の直前、ケニアの色々な面をと、布、書籍、工芸品等箱詰めにして船便で日本へ送りしました。最短の3か月で到着すればと思ったのですが、実はまだ届いていません。到着には最長で1年以上かかるケースもあり、懸念はあったのですが、現在、最長記録の方を更新中です。翻訳作業も出来るかと同梱したテヌウェクの歴史に関するやや古い書籍もあり、紛失や破棄処分は避けたいところです。ゆるされるならば、出国前に届きますよう、お祈りください。巡回中、地元の博物館等で学ぶ機会も与えられ、ひとつの地域や日本について知らないことが多いと思われました。この謹厳実直な愛すべき国の方々が、正しい方向にの努力をされるよう、そのため国内の宣教の働きが祝福されるように祈られました。健康も守られており感謝です。

今年も、ホーリーウィーク連休に、南スカイライン教会のファミリーキャンプに参加しました。今年にはファミリーキャンプ史上初の教会所有のキャンプ場の開催となりました。20数年前にこの教会でキャンプが始まり、10年前には教会所有のキャンプ場と土地を購入、昨年からは始まりました。資材は献金で賄い、労働力は全てボランティア、重機は教会員の無料貸し出し、その様子がSNSに逐一載り、他の教会からも応援の輪が広がり、今年の開催になりました。とはいえ、今回、間に合った建物は、トイレ・シャワール棟の10ブースと屋根付きの多目的スペースだけで、あとはまだ整地だけされた空き地に大型テントを2つ張って、その下で分科会をしました。宿泊は各自持ち寄ったテントです。「人間をとる漁師に」というテーマでメッセージが語られ、毎日300人は出席があり、最終日のイースター礼拝と聖餐式



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2019年5月10日

には600人強の方の出席がありました。500人分準備していた椅子が足らず、急遽資材として置いてあったH型鋼を並べて座つたりもしました。キャンプ後、SNSで見えていた他の教会の方々に「自分たちの教会もキャンプ場を作りたい」という志が与えられているのを見ました。約10年ぶりに恭子が一人で特別賛美を担当することになりました。特に他意はないのですが、豊田家は特別賛美とは無縁の生活を送っていますので、ビックリしました。韓国の賛美「主はあなたを守る方」を英語とタガログ語の歌詞にして歌いました。詩篇一二一篇の聖句をほぼそのまま置き換えて翻訳したのですが、学生たちは詩篇一二一篇だと全く気がついていない様子で、気がついていないのは先生たちだけでした。恭子は子育てやクラス準備の忙しさから、満足のいく出来ではなかったようですが、主の助けをいただけてご奉仕を全うすることができました。



4月は友人のアメリカ人宣教師の結婚式に出席して始めました。ザンビア人との結婚式で、アメリカからも両親はじめ教会員の方々が友人が来られ、ザンビア人側共々に祝福された結婚式でした。結婚式を通して神様のなさることの素晴らしさを見せて頂きました。訪問団を受け入れるためにマツトレスが必要で、注文してから何度も確認をしているのに6か月たっても届かないので、さすがにマネージャーに会わせてほしいと申し出て、やっと動き始めました。このために300kmを超えた2回のトラベルも守られ感謝でした。途中、ちょうど日本の帰省ラッシュに会うような体験もしました。イースター・ホリデーの帰省ラッシュでした。行きも帰りも少し前に事故があった所に出くわし待つことがありましたが、巻き込まれることなく無事に帰ることができました。そんなわけで暗くなつて雨も降った後で、ペンバの町から



ZAMBIA

ザンビア

富澤 香*2019年4月30日

21kmのジェンボへの道は危ないと根廻宣教師の助言でペンバに泊まることになりました。幸い友人が運転を助けてくださいました。助け手と良き助言のおかげで無事に帰ることができました。家についてひと段落ついた矢先、思いがけないハプニングが起きました。隣の働き人が知らずに、私たちの水のパイプを切断してしまつたのです。水タンクに上げるためのパイプで、直ぐにでも直さなければならぬため、約80km近く離れたチョマの町に出かけました。このように突然のトラブルが起こりますが、祈りに支えられ守られています。 ■



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2019年5月9日

「測り綱は、私の好む所に落ちた。まことに、私への、すばらしいゆずりの地だ。」(詩篇一六篇6節)
いつも台湾の働きを覚えて、尊いお祈りと温かいご支援をありがとございます。特に、台中教会の会堂移転のために、多くのお祈

りとお励ましを感謝申し上げます。イースターの前後より日本の通信物・宣教物資が新会堂にも届くようになりました。
台中教会では、4月21日にイースター聖餐式礼拝と感謝愛餐会、28日には、現会堂での最後の礼拝を守りました。このように書く

と、日本の元号の変遷に伴う平成最後と令和初めのような感じがします。振り返ってみると、前任者の時代から数えて20有余年、この場所が変わることなく、途切れることなく、毎週、毎週、礼拝がさげられ続けてきました。新会堂が決まり、週ごとに教会の備品を運び出し、28日の礼拝後、会堂正面の十字架が外され、その十字架の跡がくっきりと焼き付いている壁を見ながら、これまでの歩みを述懐しています。主の恵みと憐憫は尽きることなく、豊かにあふれるばかりに注がれ続けていました。日本よりたくさんの方、愛兄弟方をお迎えしました。又それと共に、背後の全国教会の多くのお祈りと具体的な支援、サポートに支えられての歩みであったことを強く覚えて、十字架の跡に触れながら、神さまに心からの感謝をささげました。教会は完全に移行したものの、これからが牧師宅への引越で、5月中旬以降の完全引き渡しに向けて、山積する荷物、不用品、リサイクルゴミの選別と処分が追われています。引越が一度に二つ重なった形で、少し

疲労困憊気味ですが、主を待ち望む者に注がれる新しい力を期待しつつ、前を向いての歩みです。
5月5日は、新会堂での初めての礼拝でした。待ちに待った新しい場所での礼拝、主にある兄弟姉妹がいつもより早く教会に詰めかけ、ワーシップタイムの賛美練習、会堂座席の位置調整、讃美歌や聖書を準備する受付け係、礼拝後のお茶の準備をする姿を見ながら、喜んで仕える霊が私たちを支えますようにとの聖言が心に留まりました。礼拝では、冒頭の詩篇一六篇のみことばに心をとどめながら、イザヤ四三章19節でスタートしたこの年の歩みを支え導いてくださった主を見上げて、この主を自分たちの前に置いて歩もうと決意の時を持ちました。新しい会堂が用いられ、さらに教会に連なる方々が起こされますよう引き続きお祈りをお願いします。 ■



■会計報告4月分
宣教献金 四、七二一、二一七円
月平均 二、三四六、八九六円

お祈りの課題

- ◆ケニア(鳥田就子)
◆4月も巡回奉仕が守られ、包帯も与えられている感謝
◆締めくくりに近い巡回の奉仕が祝されるように
- ◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇章2節) 特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように
- ◆ザンビア(根廻)
◆クリニックでの働きが守られますように
- ◆ジェンボでの生活が神様の証者としていられるように
- ◆就労ビザの受け取りが帰国前にできるように
- ◆ザンビア(富澤)
◆日々の生活の安全と見守り
- ◆訪問団受け入れの準備と祝福
- ◆必要な家の修理、手直しが問題なくできますように
- ◆香港(鹿島)
◆創立10周年記念礼拝の祝福と記念誌が用いられるように
- ◆今、香港で礼拝に借りている場所が使えなくなりました。相応しい礼拝場へ導かれるように
- ◆広州で始められた聖研祈禱会が祝され、牧師達の出入りが守られますように
- ◆カンボジア(鳥田緑乃)
◆カンボジア全地の給水と電気への供給が解決し、生活が通常に戻れるように
- ◆宣教師館の建設が正直な工事の元に完成されるように
- ◆伝道者の霊的活力に聖霊の満た

しによる命の息吹が力強く捧げるように
*お詫ひ。以前、編集時のスペルミスから「KCC」を「FCC」と誤って表記したこと、お詫ひ申し上げます(編集担当)。
台湾(平瀬)

- ◆新しい会堂での働きがスタートしました。主の栄光が現わされますように
- ◆牧師宅の引越と旧家屋の引き渡しのための残務整理のために
- ◆子どもたちの学びと将来の導きのために(明里は6月卒業、勝大は中三になりました)
- ◆極東アジアの国際情勢の中、台湾の政治や経済、教育、治安が安定し続けるように。2020年1月総統選挙です
- ◆フィリピン(豊田)
◆夏休み中、学生たちがサタンからの誘惑、攻撃から守られ訓練に励むことができるように
- ◆聖書大学の神学教育奉仕のため
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害から家族が守られますように。子どもたちの学びのため
- ◆グローバルユースミニストリー(鳥田康毅・由理)
◆6月からのパイプタイムと国際教会設立のために相応しい会場が与えられるように
- ◆夏に予定している「伝道が困難な地域の青少年キャンプ」の準備のため
- ◆働きのために良いネットワーク、クリエイティブな知恵が与えられ、必要が満たされるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

感受性、群れの鼓動

院長 ● 河村 從彦

「最も小さい者たちのひとりに」
(マタイ二五・40)
羊と山羊が登場します。どこが違っていたでしょうか。羊は王が困っていたときに助け(40節)、イエスさまのことは一つひとつについて行くように丁寧に尋ねています(37、39節)。ところが山羊は人ごとみたいで(44節)。

シンプルな生命体は自分のことしか感じないと言います。ところが高度になると、他者への感受性が備わってきます。わたしたちに重ねれば、自分のことだけ感じる状態から、身近な範囲、そしてだれにでも一定の感度を持てるよう

に拡大して行くということですが。感受性ならこの方において他にありません。イエスさまです。「あなたがたが、最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」。つまり「みなさんが空腹であるとき、わたしも空腹です。みなさんが牢につながれているとき、わたしも牢につながれています」ということです。イエスさまは感受性のかたまりのような方です。感受性が豊かになれば傷つくことも引き受けなければならなくなりませんが、それでもイエスさまは無防備にご自分をそのまま差し出されます。わたしたちはその方



教会音楽概論のクラス、担当は河村みち師

に触れることでいやされます。奉仕者にとって教会の鼓動への感受性は大切です。群れの方々がどう思っておられるのかを感じ取れなければ、群れの大切な方々に傷を負わせることになってしまいます。何気ないひと言が、ボディー・ブローのように効いていることもあるかもしれません。感受性は生来のものではありません。お仕えしたいと願いながらも、「みなさんが空腹であるとき、わたしも空腹です」と感じる気持ちが希薄だった。そのことに涙することなしに、牧者としてお仕えするのは難しいでしょう。群れの方々が傷を負ったご経験があるかもしれません。しかし牧者である自分は何に傷ついて生きて来たのか。この問いに向き合うことは、イエスさまの感受性をいただくチャンスになります。

神学エッセー

聖霊とクリスチャン生活 (その3) 聖霊ときよめの恵み



梅田 昇

聖霊なる神はクリスチャン生涯のあらゆる段階で働いておられると前回論じました。今回は、聖霊ときよめの恵みについて論じることにします。

1 きよめの恵みの必要性

救いだけでなく、なぜきよめの恵みが必要なのでしょう。それは信仰者の内に罪の性質があるからです。ウエスレーは「信仰者のうちにある罪」という説教を著していますが、信仰者の内にある罪とは何かと言えば、うそや暴力、盗みなどの行為ではなく、神様に逆らう性質です。たとえば、不信仰、世俗心、偶像礼拝、二心、プライド、自己中の怒り、自分勝手な不機嫌などです。犯した罪、過ちは罪を告白し、キリストを信じることで赦されますが、罪の性質があるために第二の転機としてのきよめの恵みが必要です。

2 きよめの恵みにおける聖霊パウロが「私は本当にきよめな

人間です。だれがこの死のからだから私を救い出してくれるのでしょうか」(ローマ八・24)と告白しているような霊的な葛藤を信仰者は時として覚えます。聖霊は罪について、義について、さばきについて世の誤りを示してくださいのお方です(ヨハネ一六・8)。偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、党派心、分裂、分派、ねたみなどが肉のわざであり、神の国を相続できないことを示してくださいなのです。

聖霊は罪深さを示すだけでなく、十字架の力を信仰者の心に適応してくださいなのです。パウロは「この十字架につけられて、世は私に対して死に、私も世に対して死にました」(ガラテヤ六・14)と告白しています。御子イエスの血はすべての罪からきよめてくださいます。もちろん、私たち信仰者の側で、全的献身、信仰が必要であることは言うまでもありません。

3 きよめの恵みの後の成長

きよめの恵みは罪の性質の浄化であり、人間性、人格の完成を意味しません。弱さ、脆弱性はあり続け、試練や誘惑から免除されるわけではありません。加齢とともに様々な弱さが増し加わっていくことでしょう。きよめられた人は、ますます謙って主の憐れみを求め、天に凱旋する時まで恵みの手段を健全に行使しながら、霊的に人格的に成長していくことが求められます(IIペテロ三・18)。

◆日々の学びの中で

締め括りの年の始めに

正規コース 秋田郁美

「あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。」(1ペテロ一・5)

私は平成27年に神学院に入学し、3年間聴講生として学び、昨年度に正規生となりました。今年度は五年目の学びの時を迎えております。1年間、所属の日本フリーメソジスト教団町田福音キリスト教会でインターンとして奉仕をし、来年3月に卒業を予定しています。新しい時代、令和に学びの締めくくりの年を迎えることができたこと、今まで守られたことを感謝します。

私は5年前に大腸がんの手術を受けました。退院してからも5年間は定期的に検診を受けてきました。この4月に検診を受けた結果異常がなかったため、もう検診には来なくていいと、主治医から告げられました。その日が最後の検診となったのです。ハレルヤ！
この5年間健康が守られ、神学生として学んでこれたことは素晴らしい恵みです。そして普通の正規生より1年長くなりましたが、今最終学年のインターン生として奉仕しながら、卒論も書くことができる環境が整えられていることも感謝です。所属する教会は兼牧の教会で常駐牧師がいないため、私は教会の色々な事務と、月1回の説教の奉仕をさせていただいています。忙しいながらも充実した日々です。

最近交通事故のニュースも多く、この世の命というのは突然終わりを迎えるはかないものと実感しております。私たちはこの世で生かされている間精一杯主のために奉仕をしながら、終わりの日に用意されている永遠の救いを待ち望むことができます。

この締めくくりの一年を、主の助けによって全うさせていただきたいと願っています。

◆日々の学びの中で

神さまの中で自由に生きる

聴講生 大村真実

受講数は少ないですが、神学院での学びで多くの事を神さまから教えられています。かけがえのない時間です。快適に学びをさせて頂けていることを感謝します。お祈りと温かい見守り、数々のサ



教会論・礼拝学のクラス、担当は矢木良雄師

ポートをありがとうございます。火曜日の午後「教会音楽概論」と水曜日の午前「教理II」を通信で学ばせて頂いています。
3月末から現在に至るまで、様々な事を通して神さまの評価を受け入れて生きることを決断しこの生き方を確立しようとしています。
神さまの評価を受け入れて生きることとは言い換えると神さまの中で自由に生きることだと思います。今まで生活の中で自分の無力さを思い知らされる時、私はその事実を受け入れられませんでした。しかし、何か出来るから神さまは私を愛しているのではない。存在しているだけで価値があり、高価で尊い存在だから神さまご自身が養いたいと思ってお下さっていることを受け入れる決断をしました。神さまの高評価を受けるに値しな

い者だと自分から神さまの評価を受け取ることを拒否してしました。苦しみました。この苦しみから解放して欲しいと祈っていました。神さまの時に自分の弱さを受け入れられた時、すっきりしました。苦しみから解放されました。まだまだたくさん、神さまにあつてすっきりし、解放して頂きたい所があります。
神さまと納得がいくまでコミュニケーションしながら、どのような結果になっても自信をもって良かったと言える人生にしたいです。神さまの中で自由に生きていきたいです。

◆日々の学びの中で

時が流れ始める

聴講生 藤井佳代子

新学期を迎えて、振り返る時が与えられました。昨年度は、自分の過去と和解して、今年度は、現在から未来へと、ようやく時が流れ始めている実感が湧いてきました。過去の喪失に向き合い、その存在を認め悲嘆する喪に服す時間が必要でした。ありのままの自分を受け入れていく、生かされていく、再び他者や社会との繋がりが回復されていく、決して遅すぎることではないと、主との歩みの中で

慰められていきました。

1年前の入学時には、とても想像できなかった主の癒しと恵みが注がれ、今は心身ともに整えられつつあります。新たに悲しみや課題が増し加えられながらも、主にある家族との祝福の時も与えられていて、今年度も学びが許されていることに喜びを覚えます。そして教会実習は、イムマヌエル聖宣神学院教会の皆様が温かく受け入れてくださり、大切な時を一緒にさせていただける恵みに感謝しております。

神学院での学びは、実り豊かな時です。先生方、兄弟姉妹の皆様と気兼ねなく分かち合い、質問できること、多くの気づきが与えられていることに、心より感謝いたします。去年から引続き、聖書の文脈的・帰納的な読み方、みことばからメッセージをくみ取る学びを深めています。神学院での暮らしは、心安らぐ時です。食を味わい、茶を嗜む。そよ風に吹かれて、雨上がりの木漏れ日に佇む。その一つひとつが恵みであり、ささやかな喜びに包まれ癒されています。

主の恵み、御光りを届ける器として、神様が整えてくださることを切に願います。皆様がお祈り、応援してください。ありがとうございます。特に辛い時、皆様の存在に大きく励まされております。至らない点の多い者ですが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

私の神学生時代 聖宣神学院で学んだこと 17期生 ● 油井義昭



私の両親は1942年のホーリネス教会弾圧を信徒として体験した。戦後、父(武志)母(ウメ)が母の故郷で十和田(旧三本木)キリスト教会の設立に協力し、IGM創設に信徒として関わった。荒川基督教会(現荒川聖泉キリスト教会)の献身者として二人の兄(恵一、信三)に続いて1965年に神学院に入学し、1968年に卒業した。

院長の葛田二雄師は敬虔さと学識に富み、さらにアドミニストレーションに優れた先生であった。師の姿を見て、聖書信仰の大切さ、福音的諸教会の超教派的協力、海外宣教の大切さ、教会の牧師の在り方を学んだ。さらに入学早々、葛田師は神学院を北浦和から多摩丘陵の横浜市藤が丘の東名高速の側への移転計画を持ち、実行し、68年春に献堂式を挙行了。ビジョンを持ち、祈り、実践する姿に教えられた。

寮生活は厳しかったが、良い訓練であった。辛かったのは夜の個人学習の時間が午後9時迄だったことである。共同生活での協力と

助け合い、生活を通して教職者としての姿勢を学ぶ事が出来た。2年生の夏期伝道で徳島教会の開拓伝道に参加した。天幕を張って生活し、子供と大人に伝道した。天幕伝道の合間に鴨島兄弟教会(日基教団)の伊藤栄一先生は奉仕神学生全員を教会に呼んでくださった。先生にとってはかなりの出費であったと思うが、私たちが神学生はすき焼きをご馳走になり、天幕伝道の疲れも飛んで励まされた。忘れられない思い出である。

3年の夏期伝道は札幌教会の再開拓(札幌の南から現在地へ)だった。教会開設のトラクトをもって教会の付近を戸別訪問したところ、二家族が教会に来てくださり、キリスト教が札幌では受け入れられていると感じて、大きな励みになった。卒業後の伝道師としての最初の任地は札幌だった。神学校時代に開拓伝道を経験したことは後の奉仕に役立った。

神学院で神学の基礎を学ぶ事が出来た。聖書の学び、H・S・ミラーの聖書序論(贈写版本)、メソジスト史やジョン・ウエスレーのキリスト者の完全、トローリーの基督教教理便覧(第6期生による贈写版本)、ワイレーの基督教神学を学んだ事が後の基盤となった。

聖書信仰については宗教改革者たちとウエスレー、ウォーフィールドやメイチェンの確固とした聖書観に立つ事の大切さを学んだ。またメソジストとしての精神を学ぶ事ができたことも感謝であった。

同窓生の近況

44期生
木更津教会 ● 宮崎和子



44期生、4あわせ(幸せ)と祝辞を頂き卒業。新卒単身で釧路教会2年間、主牧先生と共に清水教会5年間、結婚をして2人の子供が与えられた函館教会7年間、現在、木更津教会10年目となりました。背後のお祈りに支えられ、主牧、副牧、夫人牧師と経験させながら、神様は育てて下さいました。清水教会と函館教会在任中に、私の母が悪性リンパ腫と診断され闘病生活が続きました。その期間に主牧先生や主人、兄弟方が快く送り出して下さり、幾度か母に付き添うことが出来ました。また、姉や妹が母を支えてくれたので、私は牧師を休職しないで続けることが許されたと感じています。

昨年10月と今年1月に教会員のお母様とご主人が各々病床洗礼の恵みに与りました。家族の病気はどのご家族にとっても辛い経験ですが、厳しい状況の中にも家族の救いは何にも勝る喜びであり、力です。卒業当初の聖言(詩篇一三八・8)をにぎり、成し遂げて下さる神様に信頼しこれからも成長していけたらと思っています。

神学院スタッフ…恵みの想起

寮生活と初代院長から

学んだこと ③

図書館司書 三森春生

リーダーシップとは、リーダー(指導者)であること、またその資質、能力、職責、評価、報酬、等々、学ぶべきことが多々あります。牧師、伝道者など教職者だけでなく、教会役員、また日本のような異教社会に置かれたクリスチャンとして、ぜひ学び、身に着けておくべきことであると思います。初代院長は神学生だけでなく、教会員すべてにその大切さを訴えておられたように思います。私たちが率先すべき目標としてホーリネスを求め、国民の中で、特にクリスチャン社会にあつてのリーダーシップの確立につながってくるのです。私にとってBTCの寮生活は、そのための初歩的な最も良い訓練の場であったと思います。

学苑だより



- 横浜商大側の裏門は「ベテルハウス門」になります。
- ベテルハウスについてのお願い
静かな神学教育環境確保のために以下のことに協力ください。
- (1)ご利用の方はキャンパスを突っ切らずに、商大側の側道をご利用ください。ベテルハウス門からお入りください。
- (2)お車でご利用の方は、神学院の駐車場ではなく、ベテルハウスの駐車をご利用ください。20台駐車することが出来ます。
- ベテルハウスについてのお問い合わせは学務課・馬場姉まで。
- 本館屋根補修・葺き替えは、夏以降に着手予定です。
- 神学院祈り会は4日(火)です。
- 後援会から
・創立70周年記念感謝献金は5月末で終了しましたが、今月中はお受けしています。感謝をもってお加わりください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝申し上げます。4月の会計報告をさせていただきます。

4月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥735,500
教会団体による「神学院献金」
¥618,576
合計 ¥1,354,076
その他の献金(一時・特別)
¥126,500

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

〔会議〕
4日(火) 女性牧師部会

〔第6回カナ・フェロシツプ〕

「踏み出そう! 聖なる婚活に、
脳内婚活を後にして!」
15日(土) 午前11時~12時30分
会場 中目黒教会

午前の部のセミナー(水谷潔師)
は事前申込不要です。自由に参加
できます。

〔JEA関係〕
▽第34回JEA総会
日程 6月3日(月)~5日(水)
会場 つま恋リゾート彩の郷

IGMからは代議員5名、内山
勝、岩上祝仁、葛田聡毅、葛田直
毅、川嶋直行各師を派遣します。

〔JEA関係〕
▽第26回東海聖会
日程 6月29日(土)~30日(日)
講師 小平牧生師

〔JEF関係〕
▽第52回JEF総会・山形大会
日程 6月16日(日)~18日(火)
大会テーマ「聖化が結ぶ御霊の実」

聖会 I 講師 田中敬康師
会場 山形南部教会
総会・セミナー会場 山形国際ホ
テル セミナー講師 川上直哉師

聖会 II 講師 太田正信師
会場 山形南部教会
最終日はオプショナルツアー
IGMからは代議員6名、内山

勝、矢木良雄、岩上祝仁、釣俊栄、
神谷光一、細田恒太郎各師を派遣
します。

〔世界宣教局〕
▽葛田就子宣教師(ケニア)は6

月3日に第6期の奉仕のためテヌ
ウエクに向けて出発します。帰国
中の巡回報告のためにお招きくだ
さいました教会、聖会に心から感
謝いたします。

▽平瀬義樹、光世宣教師(台中教
会)は、現在の教会から比較的近
い場所に、集会場と牧師住居が与
えられ移転しました。今月から新
しい場所での集会を始める予定で
すので、郵便物、荷物などは新任
所までお願いいたします。

教会住所 40360 台中市西區台湾
大道二段545號 企業天廈8F
・3
電話及びFAXは変更なし
04-2320-2931/2320-6418
連絡メールアドレス
igntaiwan234@gmail.com

▽根廻恵子宣教師(ザンビア)は
10月初めに帰国されます。巡回報
告は2019年11月以降となり
ます。巡回申し込みは葛田敬子師
までお願いします。

▽ザンビア宣教訪問団の日程は8
月27日~9月5日です。団長(岩
上頼子師)を含め10名の参加者
(内、青年6名)が確定しました。
準備のために祈りましょう。

〔IWF関係〕
▽梅田昇師夫妻は先月5月11日~
16日まで、バルバドスで持たれた
ウエスレアン教会世界協議会に出
席しました。

▽5月28日(火)にIWF理事
会を開きました。

▽ロビン・ホワイト宣教師は今月
6月から報告のため、しばらくの
間、カナダに帰国されます。

間、カナダに帰国されます。

〔教育部生涯学習課〕
▽西日本地区牧師夫人研修会
(国内局協賛、女性牧師部協力)
日程 7月1日(月)~2日(火)

会場 神戸母の家ホテル
テーマ 「説教について」
講師 釣俊栄師、梅田登志枝師
(青年課)

▽牧師の推薦を経て、4名の青年
委員が立てられ、青年課運営委員
会に加わるようになりました。委
員会は8月3日(土)です。

馬場真一兄(名古屋教会)
吉村聡兄(久留米教会)
河村恵彦兄(中目黒教会)
立原朱音姉(中目黒教会)

▽第2回 Y.S.・B.T.C (開催検
討中)
日程 8月11日(日)~13日(火)

会場 聖宣神学院
(中高生課)

▽第12回全国中高生とにキャン
日程 8月13日(火)~16日(金)
会場 聖山高原キャンプ場
講師 安藤理恵子師(玉川聖学院
学院長)

テーマ 「Get Over」を翼を使
え!!! (イザヤ四〇・31)

〔聖宣神学院〕
▽信徒土曜講座は7月開講、教会
締切は6月23日(日)です。

▽後援会関係
後援会たより第5号をお送りし
ました。お読みください。

B.T.C 創立70周年記念感謝献
金は5月末日が期限ですが今月中

はお受けしています。最後の機会
にぜひお加わりください。

引き続き世話人推薦にご協力を
お願い致します。

▽ベテルハウスについてのお問い
合わせ・お申込みは学務課・馬場
姉まで。

▽ベテルハウスご利用の方は、静
かな神学教育環境を確保するため、
次のことにご協力ください。

(1) キャンパスを突っ切らずに、商
大側の側道をごくってベテルハウ
ス門(商大側の裏門)からお入り
ください。

(2) 駐車は、神学院の駐車場ではな
く、ベテルハウスの駐車場をご利
用ください。20台駐車可です。

▽神学院祈り会は、4日(火)午
後6時・本部会議室、奨励は田中
進先生です。

〔出版事業部〕
▽2019年版の「祈りのネット
ワーク」が発行されました。例年
のようにイムマヌエル教報購読の
方には無料でお届けします。追加
注文は一部200円です。今年も
ご活用くださり、諸教会・各部署
の働きのために祈りください。

消息報告



▽津村貴美子師は、5月12日の礼
拝で姫路教会でのご奉仕を締めく
くられました。今後の歩みに祝福
をお祈りいたします。

教報PDFパスワード 6022

新生宣教団 定価 一部〇〇円(税込)
郵便振替 001107133609

〔総務局〕
教職按手礼試験の希望者は、今
月末までに総務局へ申請書の提出
をお願いします。ご相談は各地域
担当ブロック・アドバイザーまで。

〔国内教会局〕

発行人 内山 勝 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
〇〇〇〇ビル イムマヌエル綜合伝道団本部